

ジョウビタキ(ヒタキ科) 全長14センチ

中国西部からウスリー、サハリンにかけて繁殖し、日本には冬鳥として渡来する渡り鳥。

日本では主に積雪の少ない地方で越冬することから、大仙市内では秋と春の渡りの季節のみ観察されます。オスの頭は銀色に輝き、胸から腹、尾にかけての橙色が特に目立ちます。



銀色、黒、橙色の配色が見事。(オス)

枝が密生する日当たりの良い場所で、地面には枯葉が積もる場所などによく現れる傾向にあります。オスが枝先から地上に舞い降りると、枯葉をかき分け餌の昆虫を引っ張り上げました。近くでは、メスも餌探しに飛び回っています。



二つの白い斑点が見える後姿。着物の家紋に見えてきた。



ジョウビタキ(尉鷄)の尉は、白髪の老人だそうです。

メスの尾羽の下部が橙色、背中の白い斑点がオスと同じですが、他は地味な色合いです。しかし、目元周りはとてもチャーミング。このつがいは、北の繁殖地に渡る途中に立ち寄ったものでしょう。



メスは地味であまり目立ちません。



近くで見るとなかなかチャーミング。

紹介した写真は、3月30日から4月10日までに撮影したものです。
今年もジョウビタキとの再会を誓い、今から撮影ポイントを物色中の気の早さ。